# 個数を数える関数

まずは、3種類の個数を数える関数を使って、さまざまな個数の数え方を行ってみましょう。

## チーム数を数える

まずは、チーム数を関数を使って数えます。さっき入力した、チームの番号を使って数えましょう。

「数値の入力されたセルの個数」を数えるには、COUNT関数を使います。

### COUNT (数値が入ったセルの個数を計算する)

- ○書式: COUNT(数値1, 数値2, ...)
- 引数 : 数値1, 数値2, ... : 個数を計算するセルの範囲
- 。例:C1~C10セルまでの数値が入ったセルの個数を数える

=COUNT(C1:C10)

では、次のようにして、関数を使ってみましょう。

- 1. A20セルに「チーム数」と入力
- 2. B20セルをクリック
- 3. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック

1			-10	1 <u>0</u>
	B18	-	fx	
	A	В	関数	の挿入

4. 利用する関数の選択

- ○「関数の分類」から「統計」を選択
- ○「関数名」から「COUNT」を選択
- 「OK」ボタンをクリック

関数の挿入	? ×
関数の検索(5):	
何がしたいかを簡単に入力して、【検索開始】 をクリックしてく ださい。	検索開始(G)
関数の分類(2): 統計	
関数名(N):	
CHITEST CONFIDENCE	1
COUNT	
COUNTBLANK COUNTIF	-
COUNT(値1,値2,) 引数リストに含まれる数値の個数を返します。	
<u>この関款のヘルプ</u> OK	キャンセル

5. 引数の設定

- 「値1」の入力欄をクリックし、A2~A19セルをドラッグして範囲指定 (自動的に「A2:A19」と入力される)
- 「OK」ボタンをクリック

			「米尔	GVIX	/用小口	1947/2511/1	177 922)	100
2	1 1 大阪			•	0	•	$\triangle$	$\triangle$
3	2 F 東京	$\Delta$		0	•	0	$\triangle$	٠
4	3 ( 大阪	関数の引数					?	41×
5	} 4:清和	COUNT						
6	5 枝浜F	COUNT	(第1 40 410)			T I NOOM	0.7001011	ΠÞ
7	6 広島		IN THEMIS			<b>N</b> = {1;2;3;4;5	007/809(10(11	
8	7.慶島		182			🔨 = 鼓値		
9	8.新潟					= 19		- b
10	3 9 神戸	引致リストに含	まれる数値の個数	彼を返します。		10		
11	10 清水							
12	11 葉		/#1. /#1 /#0		ミーカゼス カレ	5-bul (5-8-87 ± 1	40.5 co /Film7	. 🕨
13	12.J 崎F		1世に1世に世纪	。数値データだけ	がカウントされ	ます。	/J=5 30 1884 (	t þ
14	3 13 13							
15	14 大分	数式の結果 =	18					
16	15 東京\	この問題物のヘル	700			OK	キャンヤル	пÞ
17	1617						115 61	-
18	17 🕵 🖽	0	$\Delta$	0	$\triangle$	0	•	$\triangle$
19	18 18 古居	•	0		•	$\triangle$	$\Delta$	0
20	了 五数 A2:A1	9)						

## 試合数を数える

次に、チームごとの、試合を関数を使って数えます。

COUNT関数では、数値の入ったセルの個数しか数えられません。そこで、「空白でない(値が入った)セルの個数」を数 える、COUNTA関数を使います。

### COUNTA (空白でないセルの個数を計算する)

- ○書式: COUNTA(数値1, 数値2, ...)
- 引数: 数値1, 数値2, ...: : 個数を計算するセルの範囲
- ∘例:D1~D10セルまでの空白でない(値が入った)セルの個数を数える

=COUNTA(D1:D10)

- まず、最初のチームの試合数を求めましょう。次のようにして、関数で求めます。1
- 1. U2セルをクリック
- 2. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック
- 3. 利用する関数の選択
  - ○「関数の分類」から「統計」を選択
  - ○「関数名」から「COUNTA」を選択
  - ◦「OK」ボタンをクリック
- 4. 引数の設定
  - 「値1」の入力欄をクリックし、C2~T2セルをドラッグして範囲指定
    (自動的に「C2:T2」と入力される)
  - ○「OK」ボタンをクリック

UEXICO IIX						? ×
00000	値1 [02	≿T2		<u>.</u>	= {0,0," •"	
	1直2			<u>x</u>	= 鼓信	
引数リストにお	ಕಿಕಿಗಿದೆ. 5	目白でないセル	の個数を返しま	tす。	= 14	
	值1: 值1	.値2 にはか	ウントしたい値を	表す引数を1:	から 30 個ま	で指定します。
数式の結果	=	14				
2088300	JL-7(H)				04	Area Ann

同じようにして、U3~U19セルに、残りのチームの試合数を求めましょう。

#### 注意

関数を使うときに、引数に設定するセルの範囲(それぞれのチームの対戦結果)を選びことに注意しましょう。

### 勝敗を数える

次に、チームごとの、勝敗(勝ち・引き分け・負け)を関数を使って数えます。

対戦表では、勝ち・引き分け・負けは、「 」「 」「 」であらわされています。それぞれの記号の数を数えれば、勝 敗の状況がわかります。

このように、特定の条件を満たすセルの個数を数えるには、COUNTIF 関数を使います。

COUNTIF(指定された範囲のセルのうち、検索条件に一致するセルの個数を返す)

- ●書式:COUNTIF(範囲,検索条件)
- 引数:範囲:個数を求めるセルの範囲
- 引数:検索条件:個数を求めるセルの検索条件
- 例: E1~E10セルまでの内容が「」のセルの個数を数える

=COUNT(E1:E10," ")

検索条件には、次のような**比較演算子**を使います。条件を満たす場合は「TRUE」(真)、満たさない場合は「FALSE」 (偽)と判断します。

演算子	式	内容	例	結果
= ( 等号 )	A=B	AとBが等しい	1=2	FALSE
<> ( 不等号 )	A<>B	AとBが等しくない	3<>4	TRUE
>(~より大きい)	A>B	AがBより大きい	5>6	FALSE
<(~より小さい)	A <b< td=""><td>AがBより小さい</td><td>7&lt;8</td><td>TRUE</td></b<>	AがBより小さい	7<8	TRUE
>=(~以上)	A>=B	AがB以上である	9>=10	FALSE
<= (~以上	A<=B	AがB以下である	11<=11	TRUE

実際に、COUNTIF関数での検索条件は、次のように指定します。文字列を条件にする場合は、「"」(ダブルクォーテーション)で囲みます。

COUNTIF(A1:A10," ")	A1~A10セルで、値が「 」のセルの個数
COUNTIF(A1:A10,<>"")	A1~A10セルで、値が空白("")以外ののセルの個数
COUNTIF(A1:A10,<=10)	A1~A10セルで、値が「10以下」のセルの個数

まず、最初のチームの勝ち数を求めましょう。次のようにして、関数で求めます。

#### 1. V2セルをクリック

2. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック

3. 利用する関数の選択

- ○「関数の分類」から「統計」を選択
- ○「関数名」から「COUNTIF」を選択
- ○「OK」ボタンをクリック

#### 4. 引数の設定

- 「範囲」の入力欄をクリックし、C2~T2セルをドラッグして範囲指定 (自動的に「C2:T2」と入力される)
- ○「検索条件」の入力欄に、「" "」と入力
- (「」は「まる」で変換できる)
- ◦「OK」ボタンをクリック

思致の引数				? :
-COUNTE 箱田 C 検索条件 F	2:T2 O"		<u>■</u> = {0.0,* <u>■</u> = *O*	●***0***●**
指定した 〈範囲〉 に含ま ます。	まれる空白以外	トのセルのうち、くれ	= 7 検索条件>に一致する	5セルの個数を返し
検索条件 に定	お計算の対象と します。	なるセルを定義す	「な条件を、数値、式、	、または文字列で指
数式の結果 =	7			
この開設のヘルプ(H)			OK	キャンセル

次に、最初のチームの引き分け数を求めましょう。

- 1. W2セルをクリック
- 2. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック
- 3. 利用する関数の選択
  - ○「関数の分類」から「統計」を選択
  - ○「関数名」から「COUNTIF」を選択
  - ◦「OK」ボタンをクリック
- 4. 引数の設定
  - ○「範囲」の入力欄をクリックし、C2~T2セルをドラッグして範囲指定
  - ○「検索条件」の入力欄に、「" "」と入力
  - (「」は「さんかく」で変換できる)
  - ◦「OK」ボタンをクリック
- さらに、最初のチームの負け数を求めましょう。
- 1. X2セルをクリック
- 2. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック
- 3. 利用する関数の選択
  - ○「関数の分類」から「統計」を選択
  - ○「関数名」から「COUNTIF」を選択
  - ◦「OK」ボタンをクリック

4. 引数の設定

- ○「範囲」の入力欄をクリックし、C2~T2セルをドラッグして範囲指定
- ○「検索条件」の入力欄に、「" "」と入力
- (「」は「まる」で変換できる)
- ◦「OK」ボタンをクリック

## 計算式のコピー

これで、最初のチームの勝敗がわかりました。他のチームの勝敗を求めるために、最初のチームの勝敗を求める**計算式を コピーしましょう**。 計算式(つまりセル)をコピーするのに、オートフィル機能を使います。

### ( テキスト: 147~148ページ)

- 1. V2~X2セルを範囲指定
- 2. 範囲指定の枠の右下にある (フィルハンドル)にマウスポインタを合わせる
- 3.19行目までマウスを下方向にドラッグ



オートフィルができると、残りのチームの勝敗が求められます。

<u>次へ</u>に進んでください。

}}